

横山勝也先生十三回忌記念

独り吹きの会



2022年3月12日(土) 13時

すみだトリフォニー小ホール

ご挨拶

「親父が『これは俺の代で終わりだよ』とよく言ってたよ。」

と横山勝也先生(以下先生)がおっしゃっていました。親父とはお父上の蘭畝先生のもので、これ、とはもちろん尺八のことです。戦中戦後の時代背景もあり、そんなもんかと先生自身も思っておられたようです。しかし24歳のある日、

「もう一代尺八の命を長らえようと思いついて東京に出てきたんだよ。」
と伺いました。

世界中の尺八の状況が現在のようになることが分かっていたら東京での修行の重圧もさほどではなかったかもしれません。先生は尺八の家としては三代目ではあったものの地方の出身であり「七光」もほとんどなかったのでしょう。プロの尺八演奏家という形態も存在しなかった「一寸先は闇」のような状態で修行を続けることは想像を絶しています。いい音を出すことに対する「執念」と言っているほどの思いはそのような経験の産物だと思われる。現代であれば誰かが尺八のプロになる、と思った時に仮に個人的な課題があったとしても既に先生の作り上げた「時代」、それに「プロの尺八演奏家」という形がありますから、その点は大違いです。

先生と同世代の名人達も素晴らしい多くの演奏を残されましたが、今、世界中で最も愛好者が多い尺八音楽は先生の流れを汲む古典本曲であると断言できます。古典本曲自体の魅力もさることながら先生の練り上げた音そのものが国境を超えて人を魅了しているに違いありません。

そのような演奏をされる先生ではありましたが常にユーモアをお持ちだった事が更に人を惹きつけました。口癖のように「厳しく、楽しく」とおっしゃっていました。いまだに仲間が集まると「おう、よく来たね。今日は何吹くだ。」とやや静岡訛りの入った先生の口真似をします。「君のウは高いよ！何度言わせるんだ！」と厳しく言われました。そんな時でも帰ろうとすると「もう帰っちゃの〜〜」などと戯けておられました。

「僕のは見本だからね。もっと良くしてくれよ。」

そんな言い方で後に続く者を激励して下さったこともあります。先生に接したことのあるどなたの心の中にもそのような「厳しく、楽しく」の数々が残っていることと思います。

現在、先生のひ孫弟子が存在します。と言うことは一代ではなくて先生は尺八を少なくとも四代生き延びさせました。しかも、ご本人もここまでとは想像し得なかったであろう世界中にです。その音で、人柄で、人々を魅了し、更に尺八の新時代をも作った、と言って全く過言ではありません。

我々が束になってかかっても先生一人に敵うものではないのは重々承知です。ただ各人の演奏のどこか一部に、ほんの瞬間にでも、そしてもし演奏でダメならどこか「楽しく」の部分でもよいですから、横山勝也先生を感じていただけましたら幸いです。

本日おいでの皆様、ご来場を心から感謝いたします。

(柿堺香)

プログラム

1 本調

大塚浩二

私は一度も横山先生の生の演奏をお聞きした事は無いのですが、CD で拝聴して深い感動を覚えました。これがきっかけで尺八を始めて 10 年になります。先生の愛弟子の眞玉先生のご指導を受け、今回この演奏会に参加させていただきます。

2 鶴の巣籠り

阿部敏行

横山先生の『鶴の巣籠り』を始めて聴いた時の感動が今も忘れられません。同じようにはいきませんが、先生の勢いを思いながら吹きます。

3 心月

渡辺孝吉

レッスンよりも、飲食会の楽しい優しい先生の思い出しかありません。

4 一二三鉢返し

デービッド・ボニチャ

尺八を習い始めてはや 25 年余り、岡田先生に師事して 10 年になりますが、前に進む道が延びていくばかりのように感じます。音程の不安定さが大きな課題の一つですが、乙音から始まる「一二三調」と甲音から始まって乙音に戻って終わる「鉢返調」との二つの調べを合体させてなる一二三鉢返しは逃げ場を与えてくれません。この度は演奏の機会をいただき大変感謝しております。思いっきり吹かせていただきます。

5 下り柔

佐藤清弘

当時は金の卵と言われた時代でした、津軽の五所川原から蒸気汽関車で上京して早 60 年も過ぎました。この曲は津軽の殿様が大変に愛されたそうです。幼少の頃の思い出がいっぱい詰まった津軽を偲んでこの曲を選んだ次第です。

6 山越

磯征士

とても勢いかつ繊細さがあり迫力があるこの山越という曲が大好きです。まだまだ未熟ですが勢いよく挑むという気持ちで演奏したいと思います。

7 鶴の巣籠り

アレック・ラメイ

日本における大学の先生である私はよく尺八を聞いたことのない外国人に演奏します。ところが、瞑想的な長い曲を演奏すれば、皆様が退屈そうになってしまう。一方、「鶴の巣籠り」歌のようなぎっしりした、特徴の多い曲なら楽しく聞いてくれます。この理由で今日演奏する曲を選択しました。この曲に鶴という日本の代表的な鳥の鳴き声を再現する「玉音」という吹き方があります。これを聞くお客さんは鶴を思い出します。こう言った特徴を聞くと来場の皆様、私の「鶴」を楽しめることができれば光栄に思います。

8 三谷

飯田勝利

1988 年国際尺八研修館第一回講習会で「三谷」「心月調」を学び、今までにない尺八古典本曲の世界を体験。以後、先生の卓越した奏法と音色に魅了されて美星へ通い、優れた楽友にも恵まれ、2000 年には認定楽士 (No. 4) を拝受。大きな励みを頂き、今も後進の指導に傾注しています。

- 9 **山越** 中村秀剛
- 尺八は演奏者の魂や想いをそのままあからさまに映し出してくれるごまかしの効かない楽器です。そのような特別な楽器である尺八を、これほどまでに表現力豊かに高め上げてくださった、横山先生とその門下生の先輩方に感謝の気持ちでいっぱいです。まだまだ未熟者ではありますが、今日は、門下生の端くれとして、今の自分にできる精一杯を表現したいと思います。
- 10 **春吹** 池上直斗
- 横山先生作曲の春吹を、横山先生と一緒に初演された古屋先生と演奏させていただきます。心地よい春が訪れますように。
- 11 **魔切** クレアシオン桂
- 横山先生の尺八世界に魅かれたのは 25 年前、パリの音楽院でフルートの武満徹作品を学び、ノーヴェンバー・ステップスをビデオ拝聴した時。古屋先生に入門 12 年間、度々夢に現れてお稽古して下さる時に、「あなたの歌心を大切に下さい。」とお言葉を下さいます。宝物にしている言霊。「魔切」生涯大切にしたい曲の一つです。
- 12 **双獅子** 田畑智史
- 尺八らしさが詰まっている曲だと思ってはいたのですが、なかなか向き合う機会がなかった曲でした。皆様に尺八の面白さを感じてもらえるよう心して演奏いたします。
- 13 **三谷** 岩松敏一
- 30 年以上前の事と思います。海老名のホールで、横山先生とダブルコンチェルトを同じ舞台でお手伝い出来たのが私の宝物です。本当に素晴らしい音でした。あの音色は本当に忘れられないですね。
- 14 **山越** 今井祐介
- 一音一音に想いを込めて 演奏させていただきます。
- 15 **鶴の巣籠り** 小濱明人
- 横山勝也先生が遺された本曲と素晴らしい演奏（録音・映像）に触れるたび、感動と共に自らの未熟さを痛感致します。先生を偲び、感謝の気持ちを込めて演奏させていただきます。
- 16 **霊幕** 大賀悠司
- 御生前、先生にお会いすることは叶いませんでしたが、本日献奏させて頂けることに感謝です。誠心誠意、一音一音に心を込めて演奏致します。
- 17 **下り景** 島津和人
- あ〜だこ〜だと考えながら最初に暗譜した曲です。初心に帰り吹奏します。

18 産安

伊藤奈緒子

産安で、自分が生きているということを表したいとずっと思っていました。横山先生は、私が2尺4寸で産安を吹くのは無理だと何度もおっしゃっていましたが、試行錯誤の末、未だあの時の2尺4寸で吹いています。先生、やはりだめでしょうか？

19 Songs from the Lake #3, Fluid Convex

ジム・フランクリン

(for shakuhachi and live electronics)

作曲家として、私はしばしばライブエレクトロニクス（自身で生演奏する電子音）を使用します。1996年の横山先生との最初のレッスンで、あるCDを先生に差し上げました。そのCDに私が作曲、収録した尺八とライブエレクトロニクスの曲「Heart」も収録してありました。横山先生はその曲をとっても楽しんで下さったこともあり、今回のコンサートでは、「Songs from the Lake」の3番目の曲である「FluidConvex」を捧げたいと思います。「Songs from the Lake」は、私の尺八とライブエレクトロニクスの最近の作曲です。2020年にCDリリースされました。「Fluid Convex」で聞こえる音はすべて尺八からリアルタイムで得られます。サンプルや録音された音は使用されません。

20 打波

リンジー・ドウガン

横山先生の「竹一本II」に入っている「打波」の演奏は刺激的で何度も真剣に聞き、楽譜を書き練習しました。そして私が初めて先生のお稽古に伺った際、先生と同様に吹けるかとも考えましたが「打波」の魅力は決して運指の正しさだけではなく本曲は学べば学ぶ程、奥深さを感じました。

21 虚空

山本貴之

虚空はNHK文化センターで習い始めて一曲目の本曲でした。それまでは箏、三味線の曲を主に習っていたので本当に嬉しかった記憶があります。

22 下り棗

沼倉久仁男

古典本曲、海童道曲など一切知らなかった私でしたが、今井四郎先輩が上野で横山先生の発表会を始めて聴いた時その演奏会で大感激されたそうです。それから二人で横山先生の所で、真剣に勉強しようと高円寺の教室にお訪ねしたのは、巨人軍長嶋が引退した次の年の事でした。合掌

23 春寂寥の草笛

田辺芳計

「尺八は、やはり寂寥感だなア」

横山勝也先生が、そっと、つぶやいたことがあった。
メリ音の定まらぬ私に言い聞かせたかったのかも・・・今になって、そんな思いがする。

24 旅人の唄

青木康晴

今思えば稽古に通っていた頃は音を出すことにいっぱいいっぱい、曲のことを考える余裕などありませんでした。この曲をどのように吹けばよいのか、試行錯誤しつつも未だ固まっていますが、悩むくらいには成長したと言えるでしょうか。

25 浮雲

大谷康畝

勝也先生を想ったときに浮かんだ言葉、… 自由自在、ロマンチスト、洒脱、ノスタルジー、憧憬、…。想いをこめて「浮雲」を演奏いたします。

26 桔梗幻想曲 長谷川光治

この曲は蘭童曲の中で一番好きな曲です。先生が亡くなられて 10 数年、なかなか上達しませんが、心を込めて演奏したいと思います。

27 山谷 高橋 響

横山先生に初めてこの曲のご指導を頂いたのは 1995 年の春から夏にかけてです。以来、四半世紀を経過しましたが、上達しないですねえ。横山先生にお聴き頂いたらどんなコメントを下さるか、想像しながら稽古しています。

28 心月 佐々木徹

先生の一切を包み込むような温かくも深い音色を道標として吹いてまいりました。馬齢を重ねてしまいましたが、今の私の精一杯の心の月を彼岸の先生にお聞きいただきたい。

29 息観 土屋雅章

身体が大きくないのに、長い尺八を吹きたがります。
この曲で、自分の息を測りたいと思います。

30 山谷 矢野司空

広島大学を中退して上京、稽古場にお邪魔して無理やり弟子にいただいた時の横山先生の優しい顔が忘れられません。不詳の弟子で、自分勝手な活動をしていてもいつも見守っていただきました。現在、ガンを患いながら道曲に再度取り組んでいます。

31 産安 伊藤恵三

中野の教室に行くとき先生はいつも、「やあ! よく来たねえ」と言って笑顔で迎えて下さいました。今でも中野に行けば先生のお顔が見られるような気がしています。

32 虚空 酒井正毅

現役を引退して、大阪に戻ってから 10 年と 9 か月。横山先生に教えていただいた曲を、ひたすら吹いてきました。虚空は大好きな曲のひとつです。心を込めて吹きます。

33 列伝 鹿の遠音 泉武夫

この海童道曲をおそるおそる横山勝也先生の前で吹いたところ、「よろしい、その調子でどんどんやりなさい」とお墨付(?)をいただきました。今回も蛮勇を振いつつ、地無し管で奏します(後半、一部省略)。

34 息観 竹内一裕

横山先生に尺八の極意は何だと思おうと問われ、答えに窮していると、先生は「自由自在」とお答えになった。それを聞いた当時は、「自由自在」? 何となくそんなのが極意なのかなあという感じを受けた記憶がありました。その後、吹いていると『思うように音が出せない』、『メリ音が下げられない』というように尺八とはなんと不自由な楽器なのかなあと実感するようになり、この不自由な楽器を自由自在に吹くことが出来れば、本当に素晴らしい事だと思う。(只管打吹)

- 35 **山越** 岩橋庸一
- 横山先生の演奏はメリ音の連続するデリケートな旋律も、一音を吹き切る一節も魅力的であるため強い印象が残ります。模倣しようとするほどリキミの泥沼にはまります。直線的で力強いというイメージのこの曲では尚更です。とりあえずイメージを白紙に戻して自然体で臨めれば・・・
- 36 **産安** 岡田道明
- 吹き始めた途端「違う」と言われ、なかなか進めない稽古が続いた時期がありました。それほど深い先生のこの曲に対する思い入れに近づくことが、はたしてできるのか。その時の茫洋とした不安感が忘れられません。
- 37 **瀧落** 石川利光
- 35歳の春、第2回リサイタルで先生に特別出演をお願いしました。終演後お見送りの際、先生は私に「図太くやれや！」との言葉を掛けてくださいました。よほど頼りなさに映ったのでしよう。以来25年、何とか尺八で生きて来れたのは先生のお蔭に他なりません。
- 38 **本調** 柿塚香
- 横山先生は「一生この曲しか吹かなかった人もいるんだよ」とおっしゃっていました。取り組みほど底の知れない曲だと思います。音を練る、音を磨くという原点に立ち返らねばならないと痛感しています。
- 39 **虚空** 吉岡龍見
- 私が「虚空」を横山先生に御教授を受けた時の話ですが、多くのお弟子さんがレッスンを受けました。稽古場で、2・3時間待って、ようやく私のレッスンの時、「虚空」の最初の一息を吹き終わったときに、「今日はそこまで。」ほんの数秒です。それが、何年も続きました。先生が後日私に話されたのですが、「吉岡君、稽古は私の前で演奏することではなく、見る、聞く事だ。」とおっしゃいました。それが私の宝です。
- 40 **手向** 菅原久仁義
- 昭和51年8月11日竹心会演奏会にて「本調」吹奏が東京での初舞台でした。不肖の生徒を破門にもせず在籍させていただいた感謝と懺悔の「手向」となります。合掌
- 41 **山谷** 眞玉和司
- 静かにゆったりと吹くこの曲が好きです。
「先生はどうしてこの曲が好きなんですか？」
「・・・君と同じだよ。」
「？ ハイッ！」
若き日、稽古後の会話でした。
- 42 **三谷** 古屋輝夫
- 横山先生は、この曲の素朴な力強さを「古武士のようだ」と表されました。また後半の一節を指して「波にたゆたうように謳いたい」と言っておられました。私も師に倣い、遅い音と微妙な《うた》の両立を夢みます。

海外からのビデオ参加

1 産安

クリストファー・モリナ

《産安》は根本的に音楽の祈りでしょう。太平洋のこちら側でコロナ疲れは感じるのに、いずれコロナ禍が終わるでしょうから、その日が迎えられるまで「産安」というように、皆様の安全な毎日をお祈りいたします。

2 瀧落

ライリー・リー

私のナンバーワン、ずっと、絶対に好きな本曲は？

それは、日によって違います。日によっては、横山先生の「瀧落」が一番好きな本曲もあります。この本曲には、最も評価する尺八本曲のすべてが含まれていると思うことがあります。深遠でありながら、遊び心もある。「レ」の音を何度も何度も繰り返すことで、心を集中させ、息をするスペースを与えてくれるような気がします。

瀧落を演奏することは、困難であると同時に非常に満足感があります。「不可能を可能にするために努力し、奮闘するが、その奮闘を楽しむことを常に忘れない」という、横山先生から学んだことを思い出させてくれます。

3 無心 - No Mind

アドリアン・フリードマン

横山先生のレコードの演奏を初めて聴いたのは、私住んでいる英国ででした。体中に電撃が走るような感じがしました。その後、尺八のレッスンで彼の向かいに座った時も、毎回同じような感覚を味わいました。

彼には、音楽を通して心を開いて、各フレーズの感情を感じるようにと勧められました。「禅」の楽器を演奏することは、もっと厳かなものだと思っていた私は驚きました。

彼はイギリス人に教えるのが好きなようで、私たちの出会いは国の文化を超えた空間、普遍的な音の場で行われたのだと感じました。

本日の演奏は、海外からのビデオ参加を含め後日
国際尺八研修館/竹心会の youtube チャンネル
で公開されます。右 QR コードから、あるいは
ksk_chikushinkai で検索の上、ご覧ください。



横山勝也先生の伝えた尺八本曲に関心のある方は、こちらのサイトをご覧ください。

国際尺八研修館

<http://www.ksk-shakuhachi.com>



竹心会本曲研究会

<http://chikushinkai.cool-music.org>



表紙「吹定」：横山勝也著「竹と生きる」(音楽之友社)の裏表紙に署名とともに自書された先生の言葉